



## 今年度の活動

上野 邦一

(生活環境学部長 現代GP代表)

10月から始まった活動のうち主なものを取上げ、来年度の課題を探ります。

ならまち関係では、「奈良町セミナーハウス」がオープンし、利用頻度は低いがゼミや講義に利用され始めました。新年度からの利用拡大や周辺住民を巻き込んだ活動が今後の課題です。きたまち関係では、大門市場で学生有志によって学園祭中のみという期間限定でしたがカフェを開き、この活動が刺激となって市場での多彩な活動が展開し始めています。また、大門市場の南の通りで、建物を実測する授業を行いました。商店街では、空店舗を利用し、ゲストスピーカーを招いた講義を展開しました。安全・安心のまちづくりでは、防犯の視点で市民と共に、まちの調査を行いました。さらに、「生活と観光」を後期から学部専門科目として開設しました。

教員を主とした推進室会議を3回、地元での活動代表を交えた懇談会を2回、開催し全体の活動の点検、方針を検討審議し、17年度後半の活動を決めています。現代GPニュースを2回発行し、活動の様相を広報するよう務めました。

2月26日には「まちづくり・女性・大学」でシンポジウムを開き45名ほどの参加者があり、興味ある報告があり貴重な意見交換を行いました。まちづくりでの女性による関わりへの期待や、ならに限らず県全体での活動を展開することへの注文がありました。さらに、大学の教育への要請や、学生の諸活動への参加を促す意見もありました。

3月23日には、奈良をフィールドとする学部の卒業研究や修士論文を発表する機会を設け、住民・市民に研究内容を伝える場を設けました。

活動全体の立上げが遅かった割には、多彩に活動が展開できました。採択以前からの活動の蓄積があったからこそその進展でしょう。具体的な活動がないにしても、人と人のネットワークをつくっていたことが現代GPの活動へと有効に展開したのです。

最後に、学部全体の取組みになっていない部分があり、この点は来年度以降の大きい課題です。